

明治大学国際総合研究所

中東に関する現状分析・調査

Professor Masayuki Yamauchi, Meiji University
山内昌之 明治大学特任教授



M I G A

Meiji Institute for Global Affairs



「中央アジア+日本」対話(2004年~)2012年11月の第4回会合では環境保護や貿易投資の促進、アフガニスタンの安定を含め、中央アジア各国と日本が連携して取り組むことで合意。



中央アジア
面積:日本の約10倍の400万m²
人口:約6000万人

カザフスタン共和国 Republic of Kazakhstan



人口	1,640万人
民族	カザフ系(63.1%)、ロシア系(23.7%)
言語	カザフ語が国語 (ロシア語は公用語)
宗教	イスラム教(70.2%)、ロシア正教(26.2%)

中央アジア最大の国土を有する資源大国。

1997年、ウズベキスタンとキルギスタン双方の国境に近かった旧首都アルマトゥ(露語:アルマアタ)から内陸部のアスタナ(旧アクモラ市:日本人建築家故黒川紀章氏による都市設計案が採択)に遷都し、政府機関や首都機能が移転した。

ソビエト連邦崩壊後の1991年に独立。以来、現在までナザルバーエフ大統領政権が続く。ロシア人をはじめとする非カザフ民族が人口の半数近くを占めてきた経緯から、ロシア語の通用度も高い。

カスピ海周辺の大油田を中心に、石油・天然ガス、ウランなど鉱山資源に恵まれる。近年、日本との間にレアアースのプラント事業や原子力発電の研究に関する合意が締結された。他方、一人あたりのGDPが一万ドルを超えるなど、今後大きな経済成長が見込まれることにより、日本企業は消費市場としての魅力にも着目している。



ウズベキスタン共和国 Republic of Uzbekistan



人口 2,810万人

民族 ウズベク系(78.4%)、ロシア系(4.6%)、タジク系(4.8%)

言語 公用語はウズベク語 (ロシア語も広く使用されている)

宗教 主としてイスラム教スンニ派

中央アジアでは最も人口が多い国。首都タシケント(タシュケント)は地下鉄網を擁する旧ソ連第四の都市で、中央アジアの文化・学術の中心地であった。サマルカンドやブハラ、ヒヴァといった古都の景観は世界遺産にも指定され、中央アジアの代名詞となってきた。

1991年の独立以来現在までカリーモフ政権が続く。旧ソ連時代から、綿花栽培が盛んで、この国の主要な財源である。

2012 年4月付の日本の対ウズベキスタン国別援助方針:政府開発援助(ODA)では、経済インフラの更新・整備(運輸・エネルギー)、市場経済化の促進と経済・産業振興のための人材育成・制度構築支援、社会セクターの再構築支援(農業改革・地域開発、保健医療)が重点分野とされている。



キルギス共和国 Kyrgyz Republic



人口 540万人

民族 キルギス系(75%)、ウズベク系(14%)、ロシア系(7%)

言語 キルギス語が国語 (ロシア語は公用語)

宗教 主としてイスラム教スンニ派(75%)、ロシア正教(20%)

1991年の独立以来、いち早く民主化及び市場経済化を軸とした改革路線を打ち出した国。93年5月には中央アジアの中で最初に独自通貨「ソム」を導入した。98年にはWTOの加盟(旧ソ連諸国で初)も果たした。

2005年早春の「チューリップ革命」により、アカーエフ大統領が失脚し、バキーエフ、オトゥンバーエヴァ(女性)両大統領を経て、2011年12月に第4代大統領アルマズベク・アタンバーエフが就任。

日本の海外経済協力基金(OECF)は、独立後早い段階から円借款供与を開始し、96年6月の「マナス空港近代化事業」や、97年3月以来の「首都ビシュケク(旧首都フルンゼ)ーオシュ道路改修事業」が継続されてきた。独立後いち早く日本人による日本語教育が開始され、日本と中央アジアの文化教育分野における交流は中央アジアでも特筆される。



タジキスタン共和国 Republic of Tajikistan



人口 710万人

民族 タジク系(79.9%)、ウズベク系(17.0%)

言語 公用語はタジク語 (ロシア語も広く使用されている)

宗教 タジク人の中ではイスラム教スンニ派が最も優勢

内戦を乗り越え、1997年の最終和平合意後はマクロ経済安定化や構造改革を進めている。中央アジアの中では、唯一、ペルシア系民族のタジク人による国家名称である。タジク語もペルシア語に近い。国土の大部分が山岳地帯の高地で、文化の独自性もパミール高原を背景とする地形環境に伴うものが多い。

2009年4月に、日本政府は対タジキスタン国別援助計画を策定し、農村開発・産業振興、運輸・交通(道路整備・道路維持管理)、国境管理、基礎的社会サービスの整備の4つを重点分野として定め、これに基づき、例えばJICAがアフガニスタンとの国境に接続する道路の整備や給水改善、営農指導体制向上や母子保健システム改善、またアフガニスタン国境における地域農村開発等に関する協力を実施している。



トルクメニスタン Turkmenistan



人口	520万人
民族	トルクメン系(81%)、ウズベク系(9%)、ロシア系(3.5%)
言語	公用語はトルクメン語 (ロシア語も広く通用)
宗教	主としてイスラム教スンニ派

独立後早い段階で永世中立国宣言を行っており、グルバングル・ベルディムハメードフ第二代大統領政権下でも、他の中央アジア各国とは一線を画する独自路線の内外政策を堅持している。これはアフガニスタン、イラン、カスピ海とに接することによる防衛意識と無関係ではない。

豊富な天然ガス収入により、首都アシガバートは特に2000年以降激変しており、トルクメン至上の新民族主義的な動きが教育と文化のあらゆる面に濃厚に作用していることが窺える。

アシガバートの日本大使館は2006年に設置。1997年旧サラフスでイランとの鉄道が開通し、当初からトルコの資本と労働力によるモスク建設が進むなど、トルコ・イランとの外交が顕著であり、2005年にCISを脱退、2009年にECO(経済協力機構)の正式加盟国から準加盟国となった。09年には天然ガスのパイプラインが中国に至ったが、1990年代に距離を置いたロシアに再び接近するなど、「多方位外交」の様相がみてとれる。

